

追悼 亀谷 勉 先生

帯広畜産大学 学長 長澤 秀行



日本獣医史学会の監事であった亀谷勉先生が、平成24年9月20日にその生涯を終えられました。享年84歳でした。私は日本獣医史学会の会員ではありませんが、亀谷先生は大学の先輩であり、帯広畜産大学に対しても多大なご功績のある先生でありましたので、ここに追悼文を寄稿させていただきます。

先生は、昭和25年に帯広農業専門学校獣医畜産科(現・帯広畜産大学)を卒業され、獣医師として北海道内で家畜診療に従事された後、昭和29年に帯広畜産大学に着任されました。因みに、昭和29年は、私が生まれた年です。

大学では家畜病院あるいは獣医学科内科学教室において講師として教育研究に従事されておりました。先生は学生時代、馬術部に所属されておりましたし、ウマに造詣が深かったためと思われそうですが、教え子たちに「私は大学を辞めて、日本中央競馬会の研究所へ行きます。」という言葉を残し、昭和37年に大学を後にされました。

競走馬保健研究所では、研究課長、臨床課長、庶務課長として業務に専念される傍ら、アジア競馬会議の日本代表、日中友好農業訪中団の獣医技術担当などの任にもその力を発揮されました。

その後、昭和59年に再び母校に教授として赴任されました。私は、昭和49年から53年まで帯広畜産大学に在籍し、大学院修了後、徳島大学に移りましたので、学生時代に先生の講義を受講することはありませんでした。

先生は、再び着任された本学で、家畜病院長として診療業務および管理業務に従事されるとともに、岐阜大学連合獣医学研究科教授として、後進の指導にあられました。また、本学として初めての寄付講座である「JRA馬学講座」の創設に尽力されました。その他、課外活動支援にも熱心であり、特に馬術部の新入生や下級生を対象とした馬術大会を「亀谷杯」として創設し、退職後も長年に亘り優勝カップと賞金を寄贈していただきました。先生は「我が国の騎乗技術渡来の沿革」

「我が国騎兵集団の活躍と変遷」「馬頭観音様」「相馬の神様“伯楽”と星座」など、馬術部の部誌にも多く寄稿されています。

平成4年に停年退職された後は千葉に居を移されました。私は平成7年に徳島大学から本学に着任しましたので、ここでも先生とすれ違いになったのですが、平成14年から私が副学長として大学同窓会関東支部総会に出席するようになり、先生と色々な話をする機会がありました。誠実かつ温厚で面倒見がよく、人と人との絆を大切にされる先生でした。実は、先生と私の誕生日は10月16日で同じです。

ここに、帯広畜産大学を代表して、哀悼の意を表しますと共に心よりご冥福をお祈りいたします。

合 掌